

「1円でも得する節約術」100連発!

週刊朝日

12月14
2012
370円



「平穏死」
立ちはだかる壁
長谷川町子さん
幻のアイデア
スケッチ

嘉田 滋賀県知事 新党決断した
琵琶湖の密会

週刊朝日

12月14日号

第117巻第59号通巻5169号 第3種郵便物認可

2012年12月14日発行 毎週火曜日発行 (12月4日発行)

発行人 一色 清

発行所 朝日新聞出版

〒104-8011東京都中央区築地5-3-2

電話(03)5541-8767 (編集)(03)5540-7793(販売)

定価370円
〔本体352円〕



裏磐梯の秋(福島県北塙原村)

家伝
かんのや



全国発送承ります。

お電話で
(受付時間8:00-17:30) ☎ 0120-040-141

インターネットで
(24時間受付) www.kannoja.co.jp



まごころに おいしさ咲かせて
かんのや

本社/福島県郡山市西田町大田字宮木田3番地 TEL.0247-62-5676

雑誌2008-12/14



4910200821229
00352

Printed in Japan
凸版印刷株式会社印刷

延命治療しないという選択

立ちはだかる壁

シリーズ「平穏死」第3弾

死を「一人称」で考えよう

長尾クリニック院長

長尾和宏 医師 (54)

今日も、在宅医療の患者さんを2人、看取つてきました。僕は、患者さんが亡くなる瞬間は、「死亡診断書を取つてきます」と理由をつけて、あえて席を外すようにしています。本当はかばんの中に死亡診断書は2、3枚入っているのですが。

在宅での看取りは、医師ではなく、ご家族がするもの。看取りの瞬間は、家族も興奮していますから、患者さんの旅立ちが終わり、少し落ち着いたころに顔を

ます。本当に、亡くなるときは、「お祭り」なんです。だれもが普段とは違う、ハイな状態にある。祭りの本来の姿は、神の言葉を人に伝える神聖な儀式ですから、生と死、「看取り」に通じるものがあると思います。

僕は11年間、勤務医をしてから、1995年に病院を辞め、尼崎市の町医者になりました。そこにたどり着くには、きっかけがありました。

研修医時代、肝臓がんや末期がんの患者さんの主治医になりました。「医療者が余計なことをするから苦しむのではない」この疑問は後に、

医になりました。僕が患者さんにできたのは、大量の点滴と吐血したら輸血、その繰り返しだけでした。

「なぜ、人は死ぬのに、ここまで苦しまなければいけないのか」この疑問は後に、

医になりました。僕が担当していた患者さんが、抗がん剤治療を苦に自殺してしまったことがあります。

病院では「善」とされていいる延命治療への疑念が確信に変わった出来事でした。僕は、病院を去りました。

病院で、延命治療をしないために「平穏死」を選択した。人工呼吸、人工栄養、人工透析が3大延命措置と呼ばれています。延命措置を願う人の気持ち

旅立ちに際し、「穏やかな死」を願うのは、人として自然な気持ちだろう。だが必ずしも願いが叶うわけではない。自分らしい最期のため、どんな手立てを取り、どんな障害を取りのぞけばいいのか。シリーズ3回目では、町医者として500人の患者を在宅で看取つた長尾和宏医師とともに「平穏死」に立ちはだかる壁について考える。



ながお・かずひろ 1958年、香川県生まれ。東京医科大学卒業後、大阪大学第二内科などを経て95年、兵庫県尼崎市で長尾クリニックを開設し、外来診療と在宅医療に従事。日本尊厳死協会副理事長、関西国際大学客員教授

病院での平穏死

本人が事前に「不治の病かつ末期になつたときに延命措置はしないでほしい」と文書に書いて判を押してい場合でも、延命措置を差し控えたり中止できないのが現実です。本人の希望や尊厳を尊重するにはどうしたらいいのかが、いま問われているのです。

最近、厚生労働省や日本医師会、日本老年医学会、日本透析医学会が相次いで終末期医療のガイドラインを出しました。日本でも、患者さんの利益にならない延命措置は控えようという空気に変わりつつあります。しかし例えば病院で、本人がリビング・ウイルを表す文書で表明する

（満足できる平穏死を迎えるための三カ条）

一、死を常に「一人称」で考え、リビング・ウイルを文書で表明する

一、死は敗北ではない、という覚悟を持ち、周囲の意見に惑わされない

一、在宅で看取る予定なら、呼吸停止しても救急車は呼ばず、在宅主治医に連絡する

長尾和宏医師の本
ブックマン社 1333 円+税 町の在宅医が説く、満足のいく最期を迎えるための一冊

長尾和宏

胃ろうという選択、しない選択

長尾和宏

セブン&アイ出版版 150 円+税 胃ろうの選択において、本人や家族を助けるための指南書

ハーバードの「ある」「ある」「ある」

本人が事前に「不治の病かつ末期になつたときに延命措置はしないでほしい」と文書に書いて判を押してい場合でも、延命措置を差し控えたり中止できないのが現実です。本人の希望や尊厳を尊重するにはどうしたらいいのかが、いま問われているのです。

最近、厚生労働省や日本医師会、日本老年医学会、日本透析医学会が相次いで終末期医療のガイドラインを出しました。日本でも、患者さんの利益にならない延命措置は控えようという空気に変わりつつあります。しかし例えば病院で、本人がリビング・ウイルを表す文書で表明する

（満足できる平穏死を迎えるための三カ条）

一、死を常に「一人称」で考え、リビング・ウイルを文書で表明する

一、死は敗北ではない、という覚悟を持ち、周囲の意見に惑わされない

一、在宅で看取る予定なら、呼吸停止しても救急車は呼ばず、在宅主治医に連絡する

朝日新聞縮刷版

10月号

復興予算の流用問題化 捕鯨・受刑者・沖縄国道にも
山中伸弥氏にノーベル賞 再生医療に夢のiPS細胞
尼崎で床下から3遺体、共同生活で殺害か 5人が不明

好評発売中!

定価 6000円 (税込)

●お近くの書店またはASA(朝日新聞販売所)にお申し込みください。

不信感から病院を「脱走」孫も見守つた死への道程

松井暁さん(享年71)が亡くなつたのは昨年4月。



暁さんは、15年前、57歳のときに勤め先の電鉄会社を早期退職した。理由は語らなかつたが、自身で認知症の前兆を感じていたようだ。はつきり認知症と診断されたのは、その6年後の2003年。同時に妻の正子さん(当時57)にも乳がんが見つかり、治療を受けた。その後、6年後の大河くんは、60歳の正子さんは、63歳のとき、夫婦の環境は激変した。

正子さんは、次第に症状が進行する暁さんを支えながら自らの治療を受けなければならなかつた。人と話すことが苦痛に感じ、ふさぎこむ日々だった。07年に転機が訪れた。新聞記事で、介護者の家族を支援するNPO法人「つどい場さくらちゃん」(丸尾多重子理事長)の存在を知り、連絡を取つてみた。

「それからは会が主催する旅行に参加しました。最初は山陰にカニを食べに行くツアー」。他の家族と交流することで私自身もずいぶん励まされ、楽しみを見出せることができて、よかつたと思っています」

正子さんは言う。「自宅で看取りを行う意味は大きいと感じました。主人が弱り、死んでゆく。その過程を娘や孫に見せることができて、よかつたと思っています」

主治医はさらに胃ろうを勧めてきた。正子さんは、樂になりたいのは病院のほうではないのか、とますます不信感が募つたという。

その夜。在宅の主治医となつた長尾和宏医師の指示を受けながら、暁さんの口に水を含ませた。「ええ顔しとるなあ。まだいける。もうひと花咲かしてあげるで」

長尾医師が、暁さんの顔をじつと見ながら、かけてくれた言葉が正子さんは忘れられない。暁さんは、入院してから食べ物も水も口

でなくともいいのよ」

正子さんは、かたわらで喜んだ。日を経ると、暁さんはヨーグルトやバナナなどを口にするようになつた。別れはその10日後にやつてきた。当時4歳だった孫の敦士くんが、暁さんの口にプリンを運んでいた。暁さんの鼻にプリンのかけらがついて笑つた。

しかし午後5時ごろには容体が急変。息が苦しそうになり、7時には訪問看護師が、9時過ぎには長尾医師も駆けつけた。

正子さんは、かたわらで

「元気なころから、夫は無骨折した。だが、転院した先で病棟を見て驚いた。高齢の患者は、ほとんど胃ろうをつけている。体にチューブを挿した状態で、口を開け、無表情な顔で天井を見つめているのだ。

「夫をこんな状態にしたくない。早く自宅に連れて帰らなければ」

そんな不安は的中、暁さんは正子さんも知らないうちに、暁さんに人工栄養の措置を取つてしまつた。入院して2日目。午後に病院に行くと、暁さんの鼻や体には管がつながれていた。

「本人もあなたも楽になりますよ」

主治医はさらに胃ろうを勧めてきた。正子さんは、樂になりたいのは病院のほうではないのか、とますます不信感が募つたという。

わたしたちの「平穏死」

「元気なころから、夫は無骨折した。だが、転院した先で病棟を見て驚いた。高齢の患者は、ほとんどの胃ろうをつけている。体にチューブを挿した状態で、口を開け、無表情な顔で天井を見つめているのだ。

「夫をこんな状態にしたくない。早く自宅に連れて帰らなければ」

そんな不安は的中、暁さんは正子さんも知らないうちに、暁さんに人工栄養の措置を取つてしまつた。

「自宅に帰ると伝えて、病院のスタッフはうなづかない。私も不思議と火事場の馬鹿力が出ましてね。最後はひとりで、主人の服を着替えさせ、自分で呼んだ寝台車に乗せて脱走するよう出てきました」

その夜。在宅の主治医となつた長尾和宏医師の指示を受けながら、暁さんの口に水を含ませた。

「ええ顔しとるなあ。まだいける。もうひと花咲かしてあげるで」

長尾医師が、暁さんの顔

をじつと見ながら、かけてくれた言葉が正子さんは忘れられない。暁さんは、入

院してから食べ物も水も口

でなくともいいのよ」

2人の孫も、暁さんの手

でなくともいいのよ」

正子さんは手をたたいて

喜んだ。日を経ると、暁さ

んはヨーグルトやバナナな

ども口にするようになつた。

別れはその10日後にやつ

てきた。当時の午後まで

は穏やかな時間が流れてい

た。当時4歳だった孫の敦

士くんが、暁さんの口にブ

リンを運んでいた。暁さん

の鼻にプリンのかけらがつ

くと、正子さんと声をあげ

て笑つた。

しかし午後5時ごろには

容体が急変。息が苦しそう

になり、7時には訪問看護

師が、9時過ぎには長尾医

師も駆けつけた。

正子さんは、かたわらで

喜んだ。日を経ると、暁さ

んはヨーグルトやバナナな

ども口にするようになつた。

別れはその10日後にやつ

てきた。当時の午後まで

は穏やかな時間が流れてい

た。当時4歳だった孫の敦

士くんが、暁さんの口にブ

リンを運んでいた。暁さん

の鼻にプリンのかけらがつ

くと、正子さんと声をあげ

て笑つた。

しかし午後5時ごろには

容体が急変。息が苦しそう

になり、7時には訪問看護

師が、9時過ぎには長尾医

師も駆けつけた。

正子さんは、かたわらで

喜んだ。日を経ると、暁さ

んはヨーグルトやバナナな

ども口にするようになつた。

別れはその10日後にやつ

てきた。当時の午後まで

は穏やかな時間が流れてい

た。当時4歳だった孫の敦

士くんが、暁さんの口にブ

リンを運んでいた。暁さん

の鼻にプリンのかけらがつ

くと、正子さんと声をあげ

て笑つた。

しかし午後5時ごろには

容体が急変。息が苦しそう

になり、7時には訪問看護

師が、9時過ぎには長尾医

師も駆けつけた。

正子さんは、かたわらで

喜んだ。日を経ると、暁さ

んはヨーグルトやバナナな

ども口にするようになつた。

別れはその10日後にやつ

てきた。当時の午後まで

は穏やかな時間が流れてい

た。当時4歳だった孫の敦

士くんが、暁さんの口にブ

リンを運んでいた。暁さん

の鼻にプリンのかけらがつ

くと、正子さんと声をあげ

て笑つた。

しかし午後5時ごろには

容体が急変。息が苦しそう

になり、7時には訪問看護

師が、9時過ぎには長尾医

師も駆けつけた。

正子さんは、かたわらで

喜んだ。日を経ると、暁さ

んはヨーグルトやバナナな

ども口にするようになつた。

別れはその10日後にやつ

てきた。当時の午後まで

は穏やかな時間が流れてい

た。当時4歳だった孫の敦

士くんが、暁さんの口にブ

リンを運んでいた。暁さん

の鼻にプリンのかけらがつ

くと、正子さんと声をあげ

て笑つた。

しかし午後5時ごろには

容体が急変。息が苦しそう

になり、7時には訪問看護

師が、9時過ぎには長尾医

師も駆けつけた。

正子さんは、かたわらで

喜んだ。日を経ると、暁さ

んはヨーグルトやバナナな

ども口にするようになつた。

別れはその10日後にやつ

てきた。当時の午後まで

は穏やかな時間が流れてい

た。当時4歳だった孫の敦

士くんが、暁さんの口にブ

リンを運んでいた。暁さん

の鼻にプリンのかけらがつ

くと、正子さんと声をあげ

て笑つた。

しかし午後5時ごろには

容体が急変。息が苦しそう

になり、7時には訪問看護

師が、9時過ぎには長尾医

師も駆けつけた。

正子さんは、かたわらで

喜んだ。日を経ると、暁さ

んはヨーグルトやバナナな

ども口にするようになつた。

別れはその10日後にやつ

てきた。当時の午後まで

は穏やかな時間が流れてい

た。当時4歳だった孫の敦

士くんが、暁さんの口にブ

リンを運んでいた。暁さん

の鼻にプリンのかけらがつ

くと、正子さんと声をあげ

て笑つた。

しかし午後5時ごろには

容体が急変。息が苦しそう

になり、7時には訪問看護

師が、9時過ぎには長尾医

師も駆けつけた。

正子さんは、かたわらで

喜んだ。日を経ると、暁さ

んはヨーグルトやバナナな

ども口にするようになつた。

別れはその10日後にやつ

てきた。当時の午後まで

は穏やかな時間が流れてい

た。当時4歳だった孫の敦

士くんが、暁さんの口にブ

リンを運んでいた。暁さん

の鼻にプリンのかけらがつ

くと、正子さんと声をあげ

て笑つた。

しかし午後5時ごろには

容体が急変。息が苦しそう

になり、7時には訪問看護

師が、9時過ぎには長尾医

師も駆けつけた。

正子さんは、かたわらで